

## 令和5年度 泉州在宅医療懇話会 議事概要

日時: 令和5年 11 月8日(水)午後2時から午後4時

開催場所: 浪切ホール 4 階 特別会議室

出席委員: 41 名(うち代理出席1名)

三浦委員、東條委員、浦田委員、中田委員、上嶋委員、柳田委員、泉本委員、林委員、辻内委員、北野委員、平松委員、山本委員、八田委員、道明委員、八田委員、鹿島委員、松岡委員、渡辺委員(代理 松田氏)、澤近委員、上野委員、竹内委員、中村委員、野崎委員、高田委員、栗林委員、大森委員、城家委員、藪委員、山本委員、法橋委員、古川委員、乾委員、武藤委員、太田委員、久家委員、古谷委員、曾我委員、榎谷委員、桑原委員、福井委員、橋野委員

オブザーバー: 3名(野上氏、岸野氏、向井氏)

### ■議題1 第8次大阪府医療計画(在宅医療分野)について

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課・大阪府泉佐野保健所から説明

【資料1】 第8次大阪府医療計画(在宅医療)府域編(素案)

【資料2】 第8次大阪府医療計画(在宅医療)圏域編(素案)

(質問)

○資料2の2ページ目、在宅医療に必要な連携を担う拠点は大阪府として病院が担ってもよいのか。

(大阪府の回答)

○国からも指針が示されており、“地域の実情に応じ、病院、診療所、訪問看護事業所、地域医師会等関係団体、保健所、市町村等が主体”とされている。また、連携の拠点が担う役割については資料1の99ページ(と記載)の図表6-2-3に5つ記載されている。

(意見等)

○連携の拠点は医師会と市町村が主導で担い、在宅後方支援病院が支援する形になると在宅医は安心でき、在宅医も増えるのではないかと。

○資料2の3ページの図表内の在宅療養後方支援病院の泉州と大阪府の人口10万人対の値を比較すると泉州は高い値となっているが、偏在化しているのが課題である。隣接している地域が支援する体制が必要である。

○資料2の2ページの在宅医療に必要な連携を担う拠点について、泉州圏域は3つに分けているが、在宅医療という観点で考えると更に小さい区分けが必要である。

○資料2の2ページの連携の拠点を図表において、大阪府として連携の拠点をどのように考えているかわかりにくい。

○資料2の4ページの表内にある在宅患者調剤加算の届出薬局の人口 10 万人対の値を大阪府と泉州で比較すると、泉州が低いいため6ページの泉州二次医療圏における今後の取組(方向性)に、薬局の拡充を図る旨の文言を入れてはいかがか。

## ■議題2 「医療・ケアに関する情報共有シート」について

資料に基づき、大阪府泉佐野保健所から説明

【資料3】「医療・ケアに関する情報共有シート」による取組み

【資料3】(別添)医療・ケアに関する情報共有シート

### (意見等)

○特別養護老人ホームでは配置医師がいるが、常に勤務しているわけではないためすべての入所者の状態を把握するのは困難である。そのため資料3別添のシートを広げていくとともに、施設の看取りの体制を整えることが必要である。

○岸和田市の介護保険の施設部会でも資料3別添のような施設の様式が必要であるとの話になり、取組みが進んでいる。

### <合意事項>

○「医療・ケアに関する情報共有シート」は、本懇話会のACP推進の取組として今後ともこの方向性に沿って進めていく。

## ■議題3 地域医療介護総合確保基金事業(医療分)について

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から説明

【資料4】地域医療介護総合確保基金(医療分)について

【参考資料1】地域医療介護総合確保基金事業(医療分)一覧

### (質問)

○地域医療機関連携体制構築支援事業について府内の状況を教えてほしい。

### (大阪府の回答)

○府内の病院を中心に 26 の医療情報を共有するネットワークができている。しかし、活用の観点から利用価値のあるものに見直しするべきという御意見もあった。そのため今年度は、二次医療圏単位で地域連携システムを目指したモデル事業を南河内圏域で進めている。今後も二次医療圏単位を目指したネットワークづくりを目指しており、第 8 次計画大阪府医療計画へも記載をする。

### (意見等)

○特になし